

REEL No. 1-0489

0035



大正十三年五月

門	1
類	5
項	3
號	

在京朝鮮人狀況

朝鮮總督府警務局東京出張員

朝鮮人對症施改

一般

目次

一 一般情勢

頁數

(1) 戶教人員表

七

(2) 職業累別表

九

(3) 學生學校別表

一三

(4) 出身道別表

一七

(5) 居住分布表

一九

二 思想労働運動

二三

(1) 要留意團體

二九

(1) 東京朝鮮基督教青年會

三一

(2) 朝鮮留學生學友會

三二

(3) 朝鮮聯合邦蘇教會

三三

(4) 東京天道教青年會

三四

(5) 北星會

三五

(6) 黒友會

三六

(7) 東京朝鮮労働同盟會

三七

(8) 在日本朝鮮無産青年會

三八

(9) 苦學生同友會

三九

(10) 苦學生發聲會

四〇

(11) 女子學興會

四一

(12) 主要人物

四三

(13) 警視廳編入要視察人

四八

(14) 刊行物

五五

(15) 労働同盟

六〇

0037

四 大東公論	六一
四 日韓問題	六二
五 東京外同志ト、連絡	六三
六 内地人ト、關係	六七

三 社會事業

一 相愛會	七三
二 淨土宗常勤奉齋會	七五
三 輔仁會	七六
四 佛敎朝鮮協會	七六
五 雜林莊	七七
六 朝鮮學生督學部	七八
七 長白黨	七八

四 參考事項

一 朝鮮人迫害事實調査會ト	八一
二 在東京朝鮮人大會ト、關係	八四
三 二重橋爆彈事件ノ顛末	八九
四 東亞日報排斥運動ノ經過	九二
五 三一記念日ノ狀況	九三
六 大正一ノ下ト參加朝鮮人	九三
七 華豐開墾公司設立運動	九六

終

一一般情勢

在京朝鮮人ハ逐年増加シ殊ニ大正十一年
 十二月鮮人旅行取締規則廢止セラレテ内
 鮮、來往自由トナルヤ一層増加ノ傾向ヲ
 示セリ今既性五年間ニ於ケル警視廳ノ統
 計ニ依レハ

年 別	人 員	内		
		学 生	勞 働 者	其 他
大正八年末	一、二四六八	四、四八八	七、六六八	三、四八
大正九年末	二、一三〇	九、八八	一〇、六五	六、七
大正十年末	三、三三四	一、五一六	一、六二三	九、五
大正十一年末	四、六三一	一、九五〇	一、五四三	一、三八
大正十二年末	五、三四七	五、三一	二、六九四	一、二二

一ニシテ十二年五六月ノ頃學生二千三百名
 之五年八月労働者四千名ヲ以テ其ノ絶頂ト
 ス而シテ密年八月末震災直前ノ見込宗教
 ハ八千人ヲ超ヘ震災后其ノ大半級鮮或ハ
 他市縣転出ニ依リ十月末三千五百人内外
 トナリタルモ其後徐々に増加シテ本年四月
 末約五千人(見込)トナレリ
 然ルニ従来常ニ増加ノ率ヲ示シツ、アリ
 シ學生ハ近時之ト反対ノ傾向ヲ呈シ既鮮
 者ノ數入京者ニ比シ稍多キコト、ナリ而
 シテ現在學生一千人(見込)ノ三分ノ一弱ハ
 若學生ト認ムヘリ殊ニ近來ノ新來學生ハ
 殆ント若學志望者ナリ之レ畢竟震災ニ動

— 3 —

概テ存シ又販解者ニハ学期末弊業ニ依ル
者アリト雖モ其ハ大原因ハ恐テ鮮内財
界ノ不況ニ伴ヒ學費ノ出給困難トナレル
ニ他テラズ延テ學生ノ登校率ニ著シク低
減シ現ニ私立明治大学ノ如キハ整理ノ意
味ヲ以テ三月十五日在籍鮮人學生ニ百ニ
十四名中授業科滞納者百ニ名ニ對シ除名
処分ヲ決行セリ素ヨリ其ノ半数以上ハ震
災當時販解ノ儘再入京セタル者ナルモ此
等除名在京者ノ多クハ既ニ墮落シ販解ス
ル必放浪生活ニテラハレハ學働者ノ群ニ
投シ遂ニ一身ヲ謀リ難ク不良化スルハ火
ヲ賭ルヨリモ明ナリ現在セル不良者モ亦

— 4 —

凡ソ此種ノ道程ヲ辿リ来リ而シテ等シク
皆學生ト称スルモ學費ノ一部ヲ補給セラ
ル、モトト全然之十元モト下リ後者ニ
属スル所謂眞ノ苦學生ハ先ツ自給ノ途ヲ
譜シ而シテ餘暇ヲ勉學ニ充ツヘク奔走ス
ルモ多数ハ適恰ノ職ヲ得ヌシテ新聞牛乳
配達人力車挽子ノ如キ勞働ニ従事シ疲勞
ノ為到底就學不能ニ畢ルヲ常トセリ
勞働者ハ震災後一時内地人請負業者ノ下
ニ集團就労ノ状態ニアリシカ漸次鮮人團
体若ハ個人勞働ノコト、ナリ賃金其ノ他
概テ旧態ニ復セリ
内地人ノ鮮人ヲ疎隔嫌忌スルノ風ハ依然

トシテ除去セラレ且罷免地域ニ於ケル
 住宅、不足其ノ他經濟關係ハ甚シク生活
 上ニ影響シ労働者ハ素ヨリ學生ニマリテ
 多クハ郡部ニ移居シ一戸ヲ構ヘテ共同
 自炊ヲナス者増加セリ

以下ノ統計人員ハ警視廳四月末調査報
 鮮人月報ニ依ル

種別	戸数	人員	
		男	女
戸籍に居住する者	二五九	一〇五四人	一五五人
戸籍に於て居ない者 （在所村内ニ居住スル者）		一四八九	七五
其地		一三四二	三八
合計	二五九	二六八八	二六八
		四一五三	四一五三

戸数人員表

大正十三年四月末現在

職業種別		男	女	計	備考
學	生	108	37	145	内 學校 定員 100 人 共 145 人
諸	職工	513	52	565	内 裁縫 職工 40 人 共 565 人
諸	労働	1953	5	1958	
被	傭人	144	5	149	
自	勤車及電 車従業員	18		18	内 自勤車 運送 10 人 共 18 人
人	力車夫	26		26	
諸	配達夫	126		126	新聞配達 100 人 共 126 人
銀	行會社 商 業他事務員	18		18	内 銀行員 10 人 共 18 人
官	公吏 雇員	11		11	内 警部 補 10 人 共 11 人
軍	人	2		2	
医	師及藥劑師	3		3	内 藥劑師 1 人
書	画 家	3		3	
宗	教 家	2		2	内 僧侶 2 人 共 2 人
辯	護 士	1		1	内 護士 1 人 共 1 人
新	聞雜誌記者	3		3	
高	人	22		22	
行	商 人	29		29	
印	刷 業	1		1	
書	生	1		1	
農	夫	1		1	
芸	妓	2		2	
其	他	18		18	相愛会 幹事 1 人 共 18 人

職業業集別表 大正十三年四月末現在

備考 一此他ニ学校ニ定者男五ニ女一名アリ	合	小	醫	鉄	私	私	私
	計	計	機	道	工	商	立
			学	学	学	基	世
	八	二					
	五	四	九	五	六	三	
	六	一			八	一	一
		一					〇
		二					
	八	五					
	九	二	九	五	六	三	一
	二				八	二	〇

(二) 出身道別表

大正十三年四月末現在

道別	學			業			計	合計
	男	女	計	男	女	計		
京前道	九八	一六	一一四	二八	三四	三二	三八	四三
忠清北道	四一		四一	八五	三	八八	一三九	一八〇
忠清南道	四〇		四〇	一三六	四	一四〇	一八〇	二二〇
全羅北道	五二		五三	一九五	二五	二二〇	二七三	三〇三
全羅南道	九四		九六	四五九	四八	五〇七	六〇三	六八八
慶尙北道	六八		七〇	五三一	一七	五三八	六〇八	六八八
慶尙南道	一一一		一一四	一〇五二	八一	一一三三	一二四二	一三四二
黃海道	二二		二二	六三	六	六九	九一	一〇三
平安南道	六九	五	七四	七七	九	八六	一六〇	一六〇
平安北道	四五	三	四八	五四	一	五五	一〇三	一〇三
紅原道	一一		一一	五八	一	五九	七一	七一
咸鏡南道	六六	三	六九	一二七	三	一三〇	一九九	一九九
咸鏡北道	一八	一	一九	三六		三六	五五	五五
總計	七三六	三六	七七二	三〇四九	二五二	三三〇一	四一五三	四一五三

市居住分布表 大正十三年四月末現在

市内	區別	男女別		計	備考
		男	女		
深川區	男	1	0	1	
深川區	女	0	0	0	
深川區	計	1	0	1	
本所區	男	7	0	7	
本所區	女	0	0	0	
本所區	計	7	0	7	
牛込區	男	123	0	123	
牛込區	女	0	0	0	
牛込區	計	123	0	123	
芝區	男	15	0	15	
芝區	女	0	0	0	
芝區	計	15	0	15	
小石川區	男	75	0	75	
小石川區	女	0	0	0	
小石川區	計	75	0	75	
本郷區	男	84	0	84	
本郷區	女	0	0	0	
本郷區	計	84	0	84	
京橋區	男	0	0	0	
京橋區	女	0	0	0	
京橋區	計	0	0	0	
麹町區	男	84	0	84	
麹町區	女	0	0	0	
麹町區	計	84	0	84	
神田區	男	22	0	22	
神田區	女	0	0	0	
神田區	計	22	0	22	
四谷區	男	15	0	15	
四谷區	女	0	0	0	
四谷區	計	15	0	15	
須草區	男	0	0	0	
須草區	女	0	0	0	
須草區	計	0	0	0	
麻布區	男	0	0	0	
麻布區	女	0	0	0	
麻布區	計	0	0	0	
日本橋區	男	0	0	0	
日本橋區	女	0	0	0	
日本橋區	計	0	0	0	
赤坂區	男	3	0	3	
赤坂區	女	0	0	0	
赤坂區	計	3	0	3	
下谷區	男	1	0	1	
下谷區	女	0	0	0	
下谷區	計	1	0	1	
合計	男	433	0	433	
合計	女	0	0	0	
合計	計	433	0	433	
北豊島區	男	164	0	164	葉嶺、南千住、王子、豊島、川方面
北豊島區	女	0	0	0	
北豊島區	計	164	0	164	
豊島區	男	264	0	264	戸塚、千駄ヶ谷、中野、渋谷、目黒、大崎方面
豊島區	女	0	0	0	
豊島區	計	264	0	264	
荒川區	男	46	0	46	荒川、大森、目黒、大崎方面
荒川區	女	0	0	0	
荒川區	計	46	0	46	
南豊島區	男	1	0	1	南豊島、戸方
南豊島區	女	0	0	0	
南豊島區	計	1	0	1	

總計		合計	西多丁郡	八手子市及 南多丁郡	北多摩郡	南多摩郡
九〇八		四七六	一			
三七		一二				
九四五		四八八	一			
六九二		一五八	一八	二七	四三	一三九
三一		一四七		五		九
三二〇八		一七三八	一八	三三	四三	一三八
四一五三		二二六	一九	三二	四三	一三八
			市 五日市 青梅		市 府中	市 小松川 市 市

三 思想労働運動

一 昨年来ノ学生思想状態ハ大体ニ於テ急進漸進ノ二派ニ分レ一ハ民族自決ニ基キ直接行動ニ依ラムトシ一ハ文化ノ促進ニ伴フ必然ノ結果ニ俟タントトシ漸進派ノ潜勢力ハ急進派ヲ凌駕スルモノアリタルカ一度震災ニ加フルニ人爲ノ迫害ニ遇ヒテ思想ノ動機變調ヲ招キ敵愾心ヲ助長シタルト共ニ頭ニ沈鬱ノ態度アリ素ヨリ一時の現象ニ過キスニテ幾何モナク一掃テレタル觀アリト雖モ大正八年ニ於ケル朝鮮事件ト聯想シ内心頗ル快トモス深刻ニ痛嘆セル者アリ

23
一 其他ニ基固シテ前學生ノ數漸減シ要注意人物モ多ク散離セルヨリ不穩言動ヲ弄シ一若ハ左傾運動ニ出ツルモノ比較的少ナリ表面虚殺問題ヲ云為スルカ如キコト殆トナシ

24
一 由系急進派ニ属スル者ノ多クハ苦學生又ハ學生ニヤラサレ放浪者ニシテ左傾行動ニ際リテハ毎ニ少數ノ中心人物ニ依リテ劇策在右セラレ一般學生等ノ之ニ附和雷同スルモノナルカ故ニ必スシモ不穩會合ニ列シタルカ為直ニ不良性アリト即断スルヲ得ス蓋シ急進漸進両派ニ属セザル中至派所謂灰色者流カ多數ヲ占ムル所以ナ

—25—

リ近時東ニ漸進派及中立派ノ一部ニハ世
ノ大勢ニ鑑ミ衷心ヨリ日本ニ倚ルヘシト
セル穩健派ノ著生ヲ見ツ、アリ
然ルニ急進派獨立運動ノ形式ハ漸次思想
労働運動ニ導マリ殊ニ昨春來思想労働面
面ニ併セテ携ルノ傾向濃厚トナリ北星會
朝鮮労働同盟會ハ鮮人労働者ヲ直接操縦
セルトシ一面ニ於テ内地人團體トノ連絡
ニ志シテ其ノ縮ニ就テ進ミテ内地在任鮮
人ノ大同團結ニ依リ鮮人團體ト相呼應ス
ヘリ企圖シ黒友會亦之ニ対抗シテ略同様
ノ経路ヲ辿リツ、アリタル際震災ニ遭ヒ
テ諸計劃根底ヨリ覆レリ加之朴烈一派ノ

—26—

被檢挙ニ依リ其後ニ於ケル狀況概シテ振
ハス昨年十一月朝鮮基督教青年會天道教
—青年會幹部等發起トナリ羅天同胞慰問ニ
名ヲ藉リ迫害事實調査會ノ組織行動アリ
本年一月來東亞日報排斥運動ニ熱中シテ
稍氣勢ヲ揚ケ全時ニ面ヒ内地人團體トノ
提携ニ志シ或ハ大阪名古屋等ノ鮮人團體
トノ結合ヲ圖シタルモ竟、如カラズ且此
等運動ノ中心人物タル金鐘範ハ震天前飯
鮮シタル位ニシテ近時李、黨モ多ク在鮮
シ以テ武下照瑤モ亦時々飯鮮シテ專ラ鮮
内ニ於ケル運動ニ不與セル等々トナリ当
日ノ如キモ名モトキ雜輩ニ十余名参加シ

タルノミ
 而シテ事端ヲ好ムノ風アル彼等ハ最近ニ
 重橋爆弾犯人金社變ニ付スル辯護人ノ依
 頼並衣食差入ヲナスヘク朝鮮基督教青年
 會天道教青年會及學友會各代表者崔秉万
 朴思稷金世淵委員トナリ之カ要費募集ニ
 奔走中ナルカ突奇事項アル毎ニ何等カノ
 行動ニ出テカレハ己マサルモノ、如シ
 労働者ニ在リテハ稀ニ候味ニ會ヒテ行動
 ニ参加シ或ハ極メテ少敷ク要注團體加
 入者アルモノ大体ニ於テ思想單純ニシテ社
 會運動労働問題等ニ理解ナク其ノ推移ニ
 一特記スヘキモノヲ認メス

(一) 要注意団体

朝鮮人団体ハ震天前六十以上ニ達シ其ノ
内事實上ノ存在ハ約半数ニシテ此等ハ殆
ト宗教学術研鑽親睦相互扶助等ニ藉口シ
若ハ稀ニ労働運動社會主義ノ研究ヲ標榜
シ主トシテ学生ニ於テ組織シタルカ比較
的勢力アリ且毎ニ左傾行動ニ出ツル等特
ニ注意ヲ要スヘキモノハ別紙十一団体ト
認ムヘク震天后一般ニ絲々復起シツ、ア
ルニ資金ニ乏シキト人物ケキトニ依リ概
ニ不振ハス

29 一 要注意団体中日本在留朝鮮人労働状況調
査會ハ自然解散トナリ苦学生同友會ハ單

30 一 其ノ名ノミヲ存シ黒友會モ亦暴ニ朴烈
一派ノ秘密結社事件^{ニテ}検挙セラレテヨリ全
然休止ノ状態ニアリ

(中) 朝鮮道學生學友會					
事務所	創立年月	現會員數	機關紙	編輯者	綱領
(後) 市外下戸塚五九敷農館 内	大正九年十月	一千名	學子之光	相互、信睦並學術 研鑽	
<p>代表委員 金聖鉉 委員 李如星 韓偉健 李東濟 金和殿 玉濬珍 李鉉 甲鏡 李等三十五名</p>					
行 動					
<p>本年二月五日辰天向才一回總會 ヲ開催シ豫算等ヲ決議ス 北 學會、學會會、労働同盟會、學 會其他ト提携ヲ東亞日報 排 作運動ヲ等シ四月下旬春季 運動會ヲ釣場農科大學蓮 動場ニ開催セリ 本會ハキリス 放青年會ト果名同体ト云フ ヘク其、事務所ヲ青年會館内 ニ置キ在リシ關係上會館ノ再 築ニハ最モ意ヲ注ケ居レリ 集會場トシテハ唯一ノ日華日鮮 會館ヲ利用ス ○ 本會役員名稱最近委員 制ニ変更セリ</p>					

(小) 東京朝鮮基督教青年會					
事務所	創立年月	現會員數	機關紙	編輯者	綱領
市外下戸塚五九敷農館 内	明治三十九年十一月	二百名	正報은이	基督教信者、和親ヲ 圖ル	
<p>(理事長) 崔一秉 茶爾近 崔一秉 (理事) 韓偉健 金洛泳 姜鳳羽 (理事) 金相敦</p>					
行 動					
<p>會館ハ昭和九年九月罹災燒燬セ リ依テ爾、築ヲ爲シテ會館トシ キ是、甲亮ツシ前名會館總務部 ルペンソン 坂米ノ際ヲ設キテ米國 ヨリ資金ヲ得ントシテ成ラズ東 田、基督教團關係者、寄附セヨ ントシタルニ日本人、恩惠ニ浴セ ストノ反テ多ク結局京城基督教 青年會會館トナリ、朝鮮内ニ於 テ其、築ノフトシ決シ既ニ着手 セリト而シテ最近單ニ禮拜所 トシテ徒ニ前敷地 神田區西小川所 ニ五ニ坂小屋ヲ設ケタリ ○ 本年ヨリ從來ノ役員制度ニ一 全長、總務、幹事ヲ等シ、理事 長一理事三ヲ置クコトセリ</p>					

部 幹		現會員數		創立年月	事務所	行 動
		細 領	細 領	五丁名	大正十一年二月	
部 幹		現會員數		創立年月	事務所	行 動
部 幹		細 領	細 領	百五十名	明治三十九年一月	
部 幹		現會員數		創立年月	事務所	行 動
部 幹		細 領	細 領	百五十名	明治三十九年一月	

(二) 東京天道教青年會

(四) 朝鮮聯合耶穌教會

一昨秋系會議建設ヲ志シ奔
 達シタルニ京城中央院本館
 余報ヲ受テ却テ昨春ヨリ經
 費ヲ減額セラレ宗理院ノ維
 持ニハ困難トナリ爲ニ自強會
 ト稱スル前勵メ油油所ノ經營
 ニ依リテ救急スヘク計劃シ事
 二依リテ救急スヘク計劃シ事
 三、餘解ノ下ニバラツク及建
 築用材ヲ無償交付テ受クハ
 シ運動シ居レルニ成就覽来ナ
 シ

此ニ基督教青年會及學
 友會ヲ七月東京トシテ行動シ
 事務所ニ從來全青年會館
 内ニ思慮テタルカ罹災後ニ時凡
 後ノリ分スト故會ニ於テ日曜
 日行ハテシタルヲ近所會館ノ
 館址ニ移シテ行フコトセリ
 牧師榮基善ノ朝鮮不在ニ
 此等行動噴ル振ハス

部 幹		機関紙	綱 領	現 員 数	創 立 年 月	事 務 所	(ハ) 黒 友 會	部 幹		綱 領	現 員 数	創 立 年 月	事 務 所	(ニ) 北 星 會
李 弼 鎔	洪 鍾 祐 鄭 泰 成	現 社 会 民 衆 運 動	無 政 府 主 義 標 榜	三 十 名	大 正 十 一 年 十 一 月	ナシ		行 動	崔 甲 春 金 若 水	日 武 朴 衡 業 李 憲 意	共 産 主 義 標 榜	五 十 名	大 正 十 一 年 十 一 月	
密 年 九 月 朴 烈 一 派 秘 密 結 社 事 件 檢 査 セラレヨリ 全 然 行 動 ナシ 之 ヲリ 前 一 時 戦 線 同 盟 採 殺 社 等 内 地 人 思 想 團 体 下 接 近 状 態 アリ タル 全 体 体 統 秩 序 ナリ 且 朴 烈 一 派 横 ナル 態 度 カ 同 志 反 感 ヲ 購 ヒ 会 勢 漸 ク 不 振 状 態 ナリ							張 米 治 日 武 一 派 密 結 社 事 件 檢 査 セラレヨリ 全 然 行 動 ナシ 之 ヲリ 前 一 時 戦 線 同 盟 採 殺 社 等 内 地 人 思 想 團 体 下 接 近 状 態 アリ タル 全 体 体 統 秩 序 ナリ 且 朴 烈 一 派 横 ナル 態 度 カ 同 志 反 感 ヲ 購 ヒ 会 勢 漸 ク 不 振 状 態 ナリ							

部 幹		創設年月	事務所	(4) 在日本朝鮮無産青年會	部 幹		創設年月	事務所	小東京朝鮮労働同盟會		
白 武	李 憲	大正十二年六月	市外流橋町角番七二五		李 憲 崔 甲春 白 武 孫 季元 李 鉦 柳 震杰 金 天海 姜 大鷗	大正十一年十一月	市外流橋町角番七二五	市外流橋町角番七二五	北星會、姉妹會トモ見ルハク 必スシモ労働運動ノミヲ目的 トセス有ユル會合ニ参加シテ 年夏日華日鮮會館ニ主催 大會ヲ開キ解散ヲ命セラレテ ヨリ俄ニ氣力ヲ加ヘ内鮮労働 運動ニ結合ニ志シタルモ屢度 ノ為頓挫セリ 本年一月某如 機關紙「労働同盟」ヲ発刊シテ 再ニ招頭シ来リタルカ最近 李憲思ハ多ク在鮮シ日武亦 時々往復シ代表ト稱シテ鮮 内ニ於ケル思想労働運動ニ接 觸ス、メーデー日本會議ノ下 ニ二十余名参加セリ	行 勤	行 勤
<p>金然朝鮮労働同盟會ノ 異名ト云フヘク青年水月永 白武 崔 甲春 李 憲等 數名カ本會創立ヲ声期シ 當時鮮人刊行ノ雜誌シモ亦 若シタルカ特定會員ナク職 員編組一カニモナシ要スルニ 時トシテ其名ヲ利用スルニ</p>											

部	幹 綱 領	現 會 員 數	機 關 紙	創 立 年 月	事 務 所	行 動
	助 親 睦	百 名	自 由 生 活	大 正 十 年 十 二 月	市外高田町龍井ヶ谷四〇九 日華日報青年會館内	苦學生団体トシテ一時勢力アリ 左傾行動ニ出テタルカ十二年寄 宿舎建設ヲ企圖セシ以テ未特部 一動機ト相俟テ漸次不振ノ情現 トナリ而シテ該寄宿舍ハ内外 繁多ノ糾紛ヲ産ネテ一部ノ保 用ヲ許容セシレモカ全權ノ獲 否ハ一ニ會員ノ活動ニ依リ以 ナシトシ昨夏甚金釀成ノタメ 鮮内ニ巡回演劇ヲ試ミタルニ 成績思ハシカラズ本團ノ飯米ニ 先キテ度取アリ且現持部ニ人 物ナク本年一月勿々善后案ヲ設 議シタルニ何等ノ案行ハズテ 現存生十名内外ハ殆ト労働ニ從 事シ通學者兩三名ニシ

(又) 苦學生労働會

部	幹 綱 領	現 會 員 數	創 立 年 月	事 務 所	行 動
	苦學生及労働者ノ相 互扶助	五 十 名	大 正 九 年 十 一 月	市外高田町龍井ヶ谷四〇九 日華日報青年會館内	本会ハ創立當時朴烈金若 水、白 武、崔甲春、黃、 林澤龍等ヲ幹部トシテ二 百名以上ノ會員ヲ育シタルカ 十年來分裂シテ相委令ニ從 要会ヲ生ムニ及ビテ漸次萎微 一狀ヲ呈シ昨春純前働団体 タルヲ改メ以テ会名ヲ利用メ ナリニ参加シタルヲ最後トシテ 更ニ行動ナシ本会ノ前途或ハ 自然解散ト看做スヘキカ

(四) 苦學生同友會

部 幹		細 報	現 員 數	創 立 年 月	事 務 所	此 女 子 學 興 會
會長 崔 稟 相 總務 朴 命 運 幹事 韓 連 順 崔 英 相 金 良		朝鮮女子ノ教育普及 ヲ圖リ相互ノ和親ヲ旨 トス	三丁名	大正九年一月	十シ	
行 動 大正四年創設シタル女子親睦 會、後自ニシテ常ニ學友會 ト連絡ヲ結ビ行動シ来リテ ルモ昨春劉英後、貧信徳 韓、小湊相互ヲ脱退スルニ 至リ一時ニ挫折シ、農天會全 ク休止、情態トナレカ近時 稀ニ朴命運、崔稟相等、 集會列席ヲ見ルコトアリ。 ○従来事務所ヲ劉英後、 下宿トシタルモ、今人ノ脱退 ニ依リテ、イキフト、ナレリ						

氏名	年齢	出身道	別種	住所	摘要
崔兼萬	二六	京畿	甲	市外高町雜司ヶ谷三七二華屋舎	朝鮮基督青年會及聯合耶蘇教會幹部
関爽鉉	三七	〃	〃	小石川区大塚付町三六三兩方	天道教青年會幹部、自強會組織、啓働宿泊所建設、奔走中、成立、見立ナシ
朴思稷	四〇	〃	〃	小石川区大塚付一九〇香道教宗院	天道教布徳部長、関爽鉉ト同行
鄭然圭	二五	〃	乙	市外中野町吉祥寺一八〇八中四方	自ら著述家ヲ以テ在シ、不穩、言論ヲナスコアリ、時々報知新聞ハ寄稿ス
権熙國	二五	忠北	甲	四右区新宿二丁目新宿ホテル	昨春兼鄭安立ノ行動、原一、行ト共最、近入京セリ

在京主要人物表 大正十三年四月末調査

主要人物ノ動靜左表ノ通ニシテ震災以後
 及本春學校卒業期ニ於テ帰郷者多ク即チ
 金鐘範、崔甲春、朴衡秉、徐相國、李禹鉉、李廷貴
 韓在謙等相並テ帰斜セリ、其ノ在京者トモ
 多ク氣勢揚ラズ、斯ハ一面ヨリスレハ環境
 ニ依リ聊カ自重ヲ加ヘ来リタル結果ニ他
 ナラスト認メラル目下ニ於ケル表面行動
 者ハ李憲、白武、李熙瑤、三名ニシテ之ニ次
 クチ金松殷、李鉦、金天海、李鈺ノ四名トス

金洛泳	金天海	朴命連	白武	李鈕	示熙瑛
二八	二六	二七	二四	三〇	二八
黄海	ク	慶南	ク	ク	慶北
ク	ク	ク	甲	乙	甲
市外千駄ヶ谷八七七	市外澁橋町角第七二五 務友社	市外高田町雜司谷三七二 華聖會	市外中塚町下長白寮	市外中塚町下戸塚五九三 李鐘錫方	市外高田町下甲六四四方
朝鮮基督教青年會及聯合耶蘇教會幹部	朝鮮労働同盟會幹部最近長野縣下三ヶ所朝鮮労働資金支拂事件に參加し利得セリ	女子學興會幹部	北星會朝鮮労働同盟會及朝鮮無産青年會幹部 四月末至朝鮮青年同盟會出席、為京城往復セリ	學友會朝鮮労働同盟會幹部	北星會幹部時トシテ朝鮮内ニ於ケル運動ニ參加スルコトアリ、三月十一日結婚、為下梅ヶ郷

朴烈	王濬珍	李憲	金松殷	蔡鴻錫	云鎮祐
二四	二八	三二	三〇	二五	二八
慶北	金南	ク	全北	ク	忠南
ク	ク	ク	ク	ク	甲
市外千駄ヶ谷五四八 加藤方	市外澁橋町角第七二五 務友社	市外澁橋町角第七二五 務友社	市外喜久井町二恩田方	市外代々木山一〇四八細谷方	市外代々木山一〇四八細谷方
黒友會主腦、秘密結社事件、為市ヶ谷刑務所入監中	學友會幹部	北星會朝鮮労働同盟會及朝鮮無産青年會幹部、此時朝鮮内、思想労働運動ニ參加活動シ居レリ	三月中央電報排任運動ニ關スル使命ヲ得、京城(往復)シタルコトアリ	本春學卒業、應歸韓シタルニ就職運動、為四月未入京セリ	黒友會幹部朴烈一派秘密結社事件、座シ市ヶ谷刑務所入監中

大正十三年
四月末現在

警視廳編入要視察人

李東濟	李鐵	李增林	鄭恭成
三〇	二六	二七	二四
咸南	〃	〃	〃
甲	〃	〃	〃
市外高野雜 白山右四二七	小石川大塚町 七〇地方	市外代々木山 右ハ、ハ、方 諸星方	
學友會幹部、近時稍行動ヲ 慎ソリ	團體ニ直接關係ナキモ、早素過激 言動アリ	懐ニ首重ヲ加ヘ一切ノ運動ニ糸加 セス	朴烈一派、秘密結社事件、加リ市 右刑務所入監中

黃信徳	劉英俊	蔡勇近	金重漢	許健	全敏轍
二八	三四	四〇	二四	二八	二五
平南	〃	〃	〃	江原	咸南
甲	〃	〃	〃	〃	〃
日本女子 學寄、宿舎	牛込区原町 下、ハ、方 小川方	本郷区駒込東 片町九六 高林方		麹町区中、善町 四九 警務部寄宿舎	市外日暮里 一五九〇
尊念勲學ニ志シ近時會合 等ニ參加シタルコトナレ	女醫學校卒業後、本有栖野区ニ 慈善病院ニテ定留シ、三月、上旬、赤 十字病院ニ聘シ、更ニ第一層、謹慎情アリ	朝鮮基督教青年會幹部	朴烈一派、秘密結社事件、干與シ 市々右刑務所入監中	上海後政府及義烈團連絡者、疑 アリ	近來生活ニ窮シ居レリ

道北羅全					道南清忠					北忠道清	
乙	甲	甲	甲	甲	乙	乙	甲	甲	甲	甲	甲
金莫相	金松殷	李延斗	李祥奎	申文休	金在翰	丁雄	洪鎮祐	李櫻元	蔡鴻錫	洪淳福	權熙國
匡	秋山正雄	延允	李憲								仲漢
二八	三〇	三二	三〇	二五	二五	二五	三一	三〇	二五	二五	二五
左	左	學生	無職	學生	左	學生	無職	左	學生	參行商	學生
		大正十三年十月歸鮮			大正十三年十月歸鮮		大正十三年十月歸鮮				

道畿京										出身道種別	
乙	乙	乙	乙	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲
金万成	鄭然圭	吳永燮	安永義	吳基善	閔爽鎰	崔秉萬	朴思履	朴衡秉	金相根	李賢卿	本名
教憲				基舍		極光	然胞				異名
二七	二五	二二	二六	四八	三七	二六	四〇	二九	二九	二二	年令
學生	著述業	左	學生	キネ教員	左	學生	道教管理師	左	學生	學生	職業
大正十三年四月歸鮮		大正十二年九月歸鮮	所在不明	大正十三年十月歸鮮				大正十三年三月歸鮮	大正十三年十月歸鮮	大正十三年十月歸鮮	備考

慶尚南道		慶尚北道									全羅南道
甲	甲	乙	乙	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	乙
崔甲春	姜大鵬	金文補	李鈺	徐東星	李榮玉	李命連	朴準植	白晚祚	陸洪均	丁熙瑞	朴宣奎
春祚	姜徹					如星	烈武				施圭
二六	二九	三四	三〇	二八	二四	二七	二四	二四	二五	三一	二五
學生	全	左	左	左	左	學生	左	左	無職	學生	學生
大正十一年一月歸鮮	大正十三年二月歸鮮			入監中			入監中		入監中	大正十三年三月歸鮮 大正十三年三月結婚 大正十三年三月歸鮮	大正十三年三月歸鮮

全羅南道											
乙	乙	乙	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲
丁來吉	吳道根	蔡順秉	金聖敏	金熙述	金鐘弼	徐相國	高永煥	三瑋珍	南官燮	張泳奎	張瑋洙
									官燮	一聲	正行
三〇	二四	三一	二五	二七	三一	二八	三〇	二八	二四	三〇	二九
左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	學生
大正十三年四月歸鮮				大正十三年三月歸鮮	大正十三年一月歸鮮		大正十三年三月歸鮮		大正十三年三月歸鮮		福島縣へ旅行中

咸鏡南道		江原道		平安北道	平安南道						
甲	甲	甲	甲	甲	乙	乙	甲	甲	甲	甲	甲
李增林	鄭泰成	崔在宇	許供	韓小濟	白南珪	李弼鉉	在閔基	李昌根	金重漢	蔡弼近	梁福信
李元					容三	芳山					
二七	二四	三四	二八	二七	三五	二四	二六	二五	二四	四〇	二五
全	學生	左	學生	女醫	醫師	左	學生	無職	全	學生	女醫
	入監中			大正十二年十月歸鮮		大正十三年三月歸鮮		大正十二年五月文行政科 試驗合格	入監中		

南平道		黃海道		慶尚南道							
甲	甲	乙	甲	乙	乙	乙	乙	甲	甲	甲	甲
劉英俊	黃信德	池貞信	金洛詠	金科奎	張讚孝	趙正欽	裴正世	金鶴儀	李鐘模	李英庚	朴命連
		泳哲		若水	祥重	文台	正生	天海	宗尺		順天
三四	二八	三〇	三八	二七	二七	二六	二四	二六	二五	二八	二七
女醫	學生	左	學生	無職	全	全	左	左	左	學生	女子大學生
				大正十二年四月歸鮮	入監中				大正十三年育京部入 旅行	大正十二年十月歸鮮	

咸鏡南道					
甲	甲	甲	甲	甲	甲
全敏轍	韓偉健	韓在謙	韓林	李東濟	李鐵
			初吉		
二五	二九	三一	二六	三〇	二六
左	左	左	左	左	學生

備考
 一本表ニハ故鮮又ハ渡米其ノ他ニ依
 リ再入京ノ見込ナキ者ヲ除ク
 (四) 刊行物

在京鮮人ノ刊行物ハ大正二年學友會機關
 紙トシテ基督青年ヲ發行シタルニ始マリ
 而モ本紙ハ毎號殆ント不總記事アリ為ニ
 發賣頒布禁止ノ處方ヲ受ケ都度當局ヨリ
 注意戒告ヲ加ハラレタルカ十一年四月柳
 恭慶カ亞細亞公論ヲ創刊スルヤ漸ク簇發
 ノ傾向ヲ示シ其ノ内容多クハ政治時事ヲ
 論ニ勞働運動若ハ主義思想ノ宣傳ニ利用
 セントスル風アリ殊ニ同年末文化新聞社
 カ誘文活字ヲ整備シタルニ依リテ一層ヲ
 加ヘ客年震災前ノ存在左記ノ如ク十餘ヲ
 數フルニ至リ且其ノ間瘡刊シタルモ亦數
 種アリタリ而シテ震災ノ打擊ニ依リテ

大東公論	若イ人	自由生活	現社會	民衆運動	斥候隊
國文	ノ	鮮文	國文	ノ	鮮文
新聞紙法	出版法	ノ	ノ	ノ	新聞紙法
百月一回	十月一回	ノ	百月一回	ノ	月一回 不定日
林漢洙	崔秉萬	李俊業	朴烈	徐相一	宋奉萬
一約	一〇〇	一〇〇	三〇〇	一五〇	一〇〇
十一年	十一年	十一年	十一年	十一年	十一年
大東公論 十一年七月改題	在東京朝鮮基督教青年會 機關紙 十一年七月改題	滄雪會機關紙 十一年六月改題	異友會機關紙 十一年六月改題	異友會機關紙 十一年六月改題	北星會機關紙

文化新聞	學之光	題
鮮文	國文	文別
新聞紙法	出版法	屬種別
月二回 百	年一回 隨時	發行回数
千熙瑤	李昌根	發行人
五〇	不定	發行部数
十一年	大正二年	創刊年月
	學友會機關紙	摘要

一齊ニ休刊シ爾来再刊ニ志シ居レルモ大
 半ハ自然瘵刊ト見做スヘク四月亦現在
 別紙ハ通籠ニ復活シ得タル大東公論及最
 近創刊セル相慶會機關紙日鮮問題並東京
 朝鮮労働同盟會機關紙労働同盟ノ三種

発行部数	不定(創刊号一〇〇部)
発行人	市外海橋町角筈七二五李憲(余北)
印刷所	市外中塚町下中塚五二四文友堂
発行所	府下調布町上布田一〇五労働同盟社
発行回数	毎月一回一日
記事種別	社会労働問題、廣告
題号	労働同盟(國文)
種別	労働同盟(國文)
出版法	出版法

備考一朝鮮労働同盟會機關紙ニシテ第二号ヨリ誌ス
ト云フモ恐ラク創刊号ノ三ニ書リ續刊セリルヘシ

備考
一此他ニ李仁植ノ錦友會月報 李相和ノ響影
及朴彭緒ノ空虛アリ何レモ毎月五十部位
宛ヲ單ニ會員ニ限り配布セル騰寫版刷ニ
過キス

新光	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
黄人時論	國文新聞紙法	一月一日	李東華	一〇〇部	吉喜	創刊号ヲ印刷シテ 毛没金窮乏其 供養刊セリ	〃
			柳震	五〇部	吉喜	〃	〃
						七年七月癸刊セリ	

題 號	日 韓 同 題 (國 文)	届 出 種 別	新 聞 紙 法
証 書 種 別	政 治 時 事、經 濟、文 藝、廣 告		
発 行 回 數	日 二 回 一 日、下 五 日	初 刊	大 正 十 三 年 四 月
発 行 所	東 京 市 五 反 正 法 區 島 町 一 丁 目、日 韓 同 題 社		
印 刷 所	東 京 市 神 田 區 豊 島 町 四 番 地 豊 盛 堂		
発 行 人	日 韓 同 題 社 全 昌 模 (章 敬)		
発 行 部 数	不 定 (創 刊 部 一 五、〇〇〇 部)		

備 考

一 本 誌 相 愛 会 機 関 紙 二 三 年 近 々 相 愛 會 報 刊 下 改 題、第 十 一 号

題 號	大 東 公 論 (文 國)	届 出 種 別	新 聞 紙 法
証 書 種 別	政 治 時 事 外 交、經 濟、文 藝、廣 告		
発 行 回 數	毎 月 一 回、一 日	初 刊	大 正 十 二 年 七 月
発 行 所	府 下 調 布 町 下 布 田 一、〇〇 五 大 東 公 論 社		
印 刷 所	府 外 戶 塚 町 下 戶 塚 五 八 四 文 友 堂		
発 行 人	府 外 西 早 鷗 町 隔 一 内 一 三 八 全 照 明 (照 南)		
発 行 部 数	不 定 (創 刊 部 三、〇〇〇 部)		

備 考 一 本 誌 大 正 十 一 年 四 月 柳 泰 慶 (平 北) カ 創 刊 シタル 西 田 重 公 論、改 題 シテ 全 時 二 社 誌 籍 (忠 地) 主 幹 トナリ 展 天 后 休 刊 中 本 年 二 月 復 誌、年 二 百 部 ヲ 発 行 シタル 三 月 以 降 再 休 刊 セリ

五 東京外同志ノ連絡

従来東京外同志ト、連絡ハ多ク個人關係ニシテ
團體トシテノ行動ハ最近ノ傾向ニ屬ス其方法ハ
主トシテ通信ニ依レルモ重要機密ノ事項ハ往來
ニ寄托シ若ハ直接特派ノユト、セリ而シテ震
災後ニ於ケル状況ハ一時虐殺問題ヲ提ケテ各
地ト、間書信ノ往復頻繁ナリシカ團體トシテ
ハ朝鮮労働同盟會カ大坂、名古屋方面ニ活
躍セントシテ果サス纒ニ鮮内ノ行動ニ参加シ
テ將來ノ社會運動上ニ資スベク奔走シ居レ
ル、以下方面別ニ概記セバ

内地、労働運動、勃興ニ依リ十一年二月
金鐘範、金若水ハ北星會代表ト稱シテ

下坂、京章福、池健弘等ヲ説キテ日本労働
同盟、大坂聯合會ノ後援ニ依リ大坂
朝鮮人労働同盟ヲ組織セシメ爾來北星會
東京朝鮮労働同盟會ト連絡アリ這般ノ東
亞日報聲討文ニモ連名シタルカ彼ニ勢力ノ
見ルヘキモノナシ

昨春來李憲、白武、崔甲春等ハ神奈川縣下
ニ於ケル鮮人労働者ノ收攬ヲ企テタルモ却テ
反感ヲ購ヒ震災後再ヒ團體ト、提携ニ志
シテ拒絶サレタリ

鮮内、トノ關係ハ倍密接トナレリ年々歸
鮮者ノ數ヲ加ヘ出身地方別各個ニ連絡ヲ
採ル、他昨夏北星會カ巡回講演ヲナレ比較

的成功セルヲ動機トシテ東京朝鮮労働同盟會及在日本朝鮮無産青年會金鐘範崔甲春、李憲、白武、卞熙瑒等交々歸鮮シ本春ニ南勞働運動ニ参加シ亞テ南鮮労働同盟、朝鮮青年總同盟其他、會合ニモ左擔シタルカ東亞日報排斥熱ノ如キハ当地學生團、聲討ヲ導火線トシテ今々鮮内及海外方面ニ熾烈ノ状況ナリ

上海、北京、往時李東輝カ上海仮政府ニ覇ヲ握リシ際仮政府ト當地北鮮派學生トノ間ニ通信連絡アリシハ事實ニシテ學支會トモ不穩文書ノ交換ヲナシ天道教青年會ハ北京中肅ト關聯セル形跡アリシカ何レモ具體

連絡ナリ本年一月義烈團員金社燮ノ潜入ニ

對スル當地連累者毫モナカリシニ徴スルモ瞭ナリ最近北京方面ヨリ虐殺ト題スル不穩冊子ヲ朝鮮基督教青年會、學友會、天道教青年會、螢雪會、信哉庵等ニ送附シ来リタルカ其原稿

出所ノ如キモ當地ナリ露國滿洲方面ハ從來直接關係ナク稀ニ内地人主義者又ハ在鮮者ヲ介シテ行ハル、事アリ

米國、布哇、トノ間ニ至リテハ從前白南薰一派ノ基督教青年會ヲ根據トシテ連絡シ来リ依然タルモノアルモ近時書信ノ往復等頻繁ナラス

(六) 内地人トノ關係
 在京朝鮮人ノ内地人主義者ト關係ヲ生
 シタルハ大正八年四月白南薰下熙瑯金
 俊淵崔義萬外數名カ吉野作造福田狂二
 ノ主宰セル思想團體黎明會ニ加入シタ
 ルヲ以テ嚆矢トシテ翌年元鐘麟權熙
 國李增林金鴻基林世熙鄭恭成等ヲ加ヘ
 テ更ニ堀利彦ノ入ルモ俱樂部高津正道
 ノ曉民會加藤一夫ノ自由聯盟ニ各自加
 盟スルニ及ヒテ兩者ノ交渉漸ク密接タ
 ラントスル形勢アリ九年末神田美土代
 町青年會館ニ開催セル日本社會主義同
 盟大會及十年六月同館ニ開催シタルコ

スモ俱樂部講演會ニハ前記朝鮮人多數
 參加シ不穩ノ痕説ヲナス等ノコトアリ
 シカ遂ニ十年末大友榮堀利彦高津正道
 等ヲ背景トシテ朴烈元鐘麟黃錫禹白武
 孫奉元鄭恭成等十數名ニ依リテ黑濤會
 ヲ組織セリ
 然ルニ社會主義ハ鮮人ノ抱懷セル祖國
 獨立主義ト相容レサルモノアリ加之内
 地人ハ由來鮮人ヲ侮蔑シ其ノ運動ニ對
 シテモ兒戲視スルニアラシクハ之ヲ利
 用セントスル風アリ鮮人モ亦此事ヲ辨
 へ且内地人主義者中多數ノ所謂職業的
 ニ動クモノアルヲ察知シテ快トセス互

二 嫌ヲサルノ感アリ為ニ連繫常ニ永續
 セズ殊ニ斜人ニテハ事実上大枚堀
 高津岩佐山川ノ如キ名アル者トノ接觸
 ハ殆ジト不能ニシテ毎ニ二流以下トノ
 關係ナルヨリ甚ク遺憾トナス向アリ
 斯クテ内地人労働運動ノ勃興ニ伴ヒ十
 一年自武申榮雨孫奉元一派ハフコロレタ
 リア社ノ小地薰南芳雄等ト謀リテ自由
 労働同盟ヲ組織シタルカ之ヨリ斜人ノ
 労働問題研究ニ志ス者多ク而モ思想勞
 働西方面ニ併セ没頭スルノ新傾向ハ十
 二年ニ入りテ顯著トナリ左年ノメーデー
 一ニハ苦學生及労働團體タル同友會名

旗下ニ約三十名参加シ七月千葉縣野田
 町ニ開催シタル關東労働同盟大會ニ東
 京朝鮮労働同盟會代表ト稱シテ金若水
 崔甲春外數名出席シテ當時紛争中ノ京
 城護謨職工罷業ニ対スル同情ヲ求メタ
 ルカ如キ高尾平兵衛社會葬ニモ亦北星
 會黒友會東京朝鮮労働同盟會ノ三團體
 トシテ金若水白武下熙塔朴烈孫永極崔
 甲春李憲等五十餘名會葬セリ
 而シテ昨年北星會ハ平素信頼セル同宗
 辯護士布施辰治ヲ促シ鮮内各地ニ講演
 會ヲ巡演シテ氣勢ヲ揚ケ黒友會亦高尾
 平兵衛社會葬以來頃ニ親交トナリタル

戰線同盟抹殺社其他内地人団体ト共
 承威運動ニ著手スベク謀議中偶震災
 依リテ中絶セリ
 震災後ニ在リテハ三月十六日華日鮮會
 館ニ於テ日本勞働同盟及朝鮮勞働同
 盟會主催ノ震災時被殺日支鮮勞働者合
 同追悼會ヲ行ヒ白武韓偉健金天海李東
 濟朴思櫻朴命連等出席シ學生ヲ加ヘテ
 約百五十名及支那人三十名内地人約二
 百名集合シタルモ終了ニ至ラスレテ解
 散ヲ命セラレタルトメデー當日東京
 朝鮮勞働同盟會名旗下ニ二十餘名參加
 シタルノミ

三 社會事業

近時朝鮮問題ノ喧傳ト共ニ這般ノ震災ヲ
 一區劃トシテ救濟施設漸ク直轄ノ域ニ入
 ラントセリ然リト雖モ由來朝鮮關係ノ
 社會事業ト目スヘキモノ極メテ少ナク時
 トレテ企畫セララルモ多クハ賣名貪慾ノ
 具ニ供セントスル野心ニ基ケルヨリ出現
 ニ至ラスレテ終ルコトアリ彼ノ震災當時
 ニ於ケル鮮人ニ對スル流言蜚語ハ畢竟朝
 鮮ヲ理解セサルニ原因スト稱シ表面ニ内
 鮮融和ヲ標榜シテ陰ニ私利ヲ營ミタルカ
 如キ類例亦乏シカラス

而シテ從來此ノ種ノ團體總テ十數アリタ
 ルガ震災被害ニヨリテ一様ニ頓挫シ之ヲ
 期トシテ有名無實又ハ記スヘキ程度ニ至ラ
 ガル微弱ナルモハ悉ク瘵滅ニ皈レ其ノ
 名実相伴フモノミ本年ニ入りテ徐々復
 活シツ、アリ
 必スシモ社會事業タルノ形體ヲ備ヘサル
 モノアルモ共ノ主ナルモノヲ概記セハ
 豫テ本所匠太平町ニ新築中ナリレ朝鮮總
 督府所管ノ朝鮮人勞働宿泊所完成ト共ニ
 相愛會ニ無償貸附スルコト、シ本年一
 月二十三日前事務所日本橋区蠣殼町ニ丁

一月日鮮起業會社建物ヨリ移轉セリ當時同
 會ハ之ヲ機トレテ會員ノ整理ヲ行ヒ約三
 百名ヲ收容シタルカ其後出入アリテ四月
 末現員二百八十二名トナレリ簡易食堂ヲ
 開キ職業紹介ヲレ或ハ夜學ヲ勵行シ居
 レルモ成績未タ顯著ナラス
 而シテ最近更ニ朝鮮學生簡易宿泊所建設
 費トシテ震災善後會ヨリ參萬圓内務省社
 會局ヨリ他ノ社會事業團體ト同シク參萬
 餘圓及建築材料ノ補助ヲ受クルコト、十
 リタルヲ以テ目下敷地物色中又豫テ計画
 セル機關紙「日鮮問題」ハ四月一日創刊セリ
 尚ホ震災後新ニ山梨縣甲府市慶尚南道益

山忠清南道江景ニ本會地方支部ヲ設置セ
リト云フ

客年九月罹災焼失後幾何モナク東京府ヨ
リ補助ヲ得テ六十坪ニ棟ノ假小屋ヲ新築
シ單ニ勞働宿泊所ニ充テタルモ設備整ハ
サル為四月未收容現員内地人四十名朝鮮
人々名ニ過キス然ルニ今回本會事業援助
トシテ震災善後會及内務省社會局ヨリ各
參萬下附セラレコトナリタルヲ以テ
近ク本建築ニ著手ノ筈ナルカ將來簡易工
業學校及木工印刷其他ノ授産部附設ノ計
画アリ印刷所ハ既ニ小規模ノモノヲ設置

シ居レリ(理事中西雄洞)

(三) 輔仁會(府下豊多摩郡落合村下落七五四)
特志家熊本利平ノ出資ニ関ハリ柳澤政太
郎ヲ會長トシテ大正九年一月以來鮮人苦
學生救濟ノ為ニ十數箇所ニ借家シ無料宿
泊所ヲ經營シタルモ其ノ実績擧ラズ寧口
弊害アルヨリ震災ヲ機トシテ中止シ今後
善良苦學生數十名ヲ限り學資贈與ノコト
ニ変更ノ上先以最初十名位ニ対シ毎月四
十圓宛ヲ支給スヘク目下人選中ナリ

(四) 佛教朝鮮協會(神田区通神保町二)
大正八年六月創立以來時々講演慰安歡迎
研究等ノ諸會ヲ開催シ或ハ人事相談部授

産部ヲ附設シテ内鮮融和ノ為相當効果ヲ
擧ゲ来レル本會ハ罹災後僅ニ朝鮮同胞追
悼會ヲ主催シタルノミニテ事業中止ノ状
況ニアリシカ最近焼跡ニ假小屋ヲ設ケ新
次復舊計劃中(理事長推尾辨匠主事横山
誠蕙)

(五) 鷄林莊(府下豊多摩郡野方村新井五三)

鷄林莊經營者松浦淑郎ハ大正十一年九月
来市外巢鴨町ニ於テ鮮人苦學生及勞働者
救濟ト稱シ一時二十餘名ヲ收容シ居リテ
ルモ漸次縮少シ翌春現住所新井へ移轉シ
同時ニ金ヲ休止ノ姿ニアリタルカ震災後
再起シ種々奔走ノ末本年二月内務省社會

局ヨリ建築費參萬餘圓ヲ建築材料ノ補助
ヲ度クルユトナリ鮮人勞働者簡易宿舎
所設立ニ着手セリ

(六) 朝鮮學生督學部宿舎(麹町區中區番町四九)

四月末日現在寄宿舎生五十四名而モ毎日
ノ如ク入舎希望アルモ罹災焼失後急設セ
ル一棟ノ假小屋及焼殘レル二三室ノミニ
シテ常ニ滿負ノ狀況ナリ本年一月末再ヒ
舎生ノ自治的經理ニ委セタルカ一人一月
ノ要費僅ニ十一圓内外ナリト

(七) 長白寮(信哉庵)(府下戸塚町下戸塚六五)

本宿舎ハ元来秩序ナク殆モ勞働宿泊所ノ
如キ觀アリ殊ニ出入自由ナルヨリ不良學

生ノ介在 多ク現ニ自武ノ如キモ在舎セリ
 目下三十六名(五月五日現在)ニシテ經營者
 存藤七雄ハ獨逸へ洋行ノ希望アリ引續キ
 家族ニ於テ經營スヘシト

四 參考事項

(一) 朝鮮迫害事實調査會、在東京朝鮮人大會トノ關係
 密年九月罹災同胞慰問、藉口ニ陰ニ朝鮮
 人迫害事實調査ヲ行フハク在京朝鮮基督
 教天道教西青年會幹部發起トナリ組織シ
 タル本會ハ當時東亞日報社關係ノ救濟金
 二千餘圓ヲ得テ罹災者ニ金品ノ寄贈ヲナ
 ス等慰問ニ資シタルモ多クハ冗費若ハ委
 員ニ於テ分食シ迫害ノ事柄ニ對シテハ頗
 ル社撰ノ調査ヲナシタルカ同年十二月二
 十五日市外高田町雜司ヶ谷日華日鮮青年
 會館ニ之カ經過報告會ヲ開催シ未會者約
 二百名ノ席上「在東京朝鮮人大會」ノ名ヲ以
 テ

一、被虐殺朝鮮人ハ二千六百十一名ナリ(十
 一月末迄ノ調査)
 一、震災當時ニ於ケル朝鮮人犯罪事實ハ全
 然ナレ

一、流言蜚語ノ出所ハ日本政府當局ナリ
 一、流言蜚語ハ動機ハ日本人民心ノ動揺ヲ
 防止シ鮮日無産階級ノ分離ヲ圖ル為ノ
 政畧ナリ
 一、流言蜚語ノ傳播者亦日本政府當局ナリ
 トノ聲名ヲナスト共ニ當日限り慰問班ヲ
 解散シ以後在東京朝鮮人大會トシテ一切
 ノ事業ヲ繼承スルコトヲ決議セリ
 當時聲明書並慰問班ニ於テ作成セル朝鮮

同胞慰問実況書等ノ不穩文書ハ別ニ印刷
 ニ附シ廣ク内外同志ニ密頒スヘク一度計
 画シタルモ果サス各個ニ通信シタル形跡
 アリ最近北京、金健ノ名ヲ以テ配布シタル
 冊子「虐殺」原稿ノ如キモ首腦者韓偉健ニ於
 テ私ニ該実況調査書ヲ拔萃送附シタルモ
 ノト認ム
 然ルニ其ノ後ニ於ケル状態ハ朝鮮人大會
 トシテノ行動ニ見ルヘキモノナク本年一
 月中旬東亞日報社ノ軟化詰問状ニ本會名
 ナ冠シタルコトアルニテ内容ニ何物
 モナク單ニ一時ノ方便ニ出テタルニ他ナ
 ラス其ノ行動実権依然トシテ前慰問班幹

-P3-

部タリシ白武、下熙瑯、韓偉健、李東濟、朴思稷
 李根茂等ノ手ニマリ而シテ東亞日報社關
 係殘金其ノ後ニ回ニ亘リテ送附シ来リタ
 ルヲ合シテ五百円トナレルヲ約百円ハ東
 亞日報聲討文石版印刷ニ費消シ目下四百
 円内外アリ依テニ重橋爆彈犯人金社變ノ
 差入及秘密結社朴烈一派ノ保釋運動費等
 ニ充當スヘシト緝シ居レルモ確実ナラス
 (二) 重橋爆彈事件ノ顛末

-P4-

本籍慶尚北道安東郡豐北面五美洞三六九
 (義烈團員) 金 祉 燮 當四十年
 本籍長崎縣南高末郡口之津村甲二四一
 理髮職 小 林 開 當二十年



本籍佐賀縣佐賀郡新北村森井六五三

(共產主義者) 秀 長 廣 二 當 于 六 年

本籍長崎縣南高来郡口之津村甲二四一

小林 寛 一 當 于 四 年

本籍長崎縣南高来郡口之津村乙五七七

黒島 里 経 當 三 十 一 年

王犯金社變ハ御里ニ於テ私立學校教員ヲ
勤メ後法院(裁判所)書記兼通譯生ヲ奉職シ

タルコトアリ豫テ日韓合併ヲ快トセス大
正八年朝鮮騷擾事件ノ勃発スルヤ遂ニ滿

洲ニ奔リ更ニ上海ニ道レテ高麗共產黨負
トナリ大正十一年義烈團ニ加盟セリ
然ルニ義烈團ハ日本帝都ハ騷擾ヲ計画シ

昨年十二月之カ決行ヲ謀議シタル際犯人
自ラ衝ニ當ルヘク希望シテ首領金元鳳ノ

賛同ヲ得單身著手スルニ至レリ
而シテ逮捕當時内地侵入ノ経路ニツキ朝

鮮ヲ通過セリト虚構ノ供述ヲナセルモ事
実ハ出発数日前同志尹滋英(共犯)ヲ介シテ

秀島 廣 二 及 小 林 開 一 識 知 船 員 夕 爾 開 一 実
元 小 林 寛 一 及 黒 島 里 経 二 依 頼 シ テ 密 航 シ

本 年 十 二 月 二 十 日 夜 上 海 対 岸 浦 東 二 浣 泊
中 ノ 三 井 荷 物 汽 船 天 城 山 丸 二 爆 彈 三 個 ヲ

携 帶 シ テ 開 一 共 二 乘 船 左 月 三 十 日 福 岳 縣
八 幡 港 二 上 陸 シ 本 年 一 月 三 日 迄 同 地 備 前

屋 旅 館 二 中 村 彦 太 郎 卜 詐 稱 投 宿 (上 海 二 於

一八七—
 中村彦太郎（名刺ヲ印刷所持セリ）
 上三日夜枝光驛ヨリ乗車普通列車ニテ
 直行五日朝六時頃品川驛ニ下車シタルモ
 地理不案内ノ為再ヒ省電車ニ乗りテ高
 田馬場駅ニ降車夫レヨリ腕車ヲ駆リテ牛
 込区早稲田鶴巻町ニ到リ下宿屋瑞總館ニ
 テ朝食ヲ喫レ十一時頃左館ヲ立出テ終日
 日比谷公園附近ヲ彷徨シ午後七時頃宮城
 二重橋前ニ接近シクル際警戒ノ警察官
 二誰何セラレ狼狽シテ先ッ一彈ヲ警察官
 二向ケ投擲シタルニ突起部ノ破損ノミニ
 一炸裂セズニ重橋ニ躡進シテ更ニ残存ノ
 二個ヲ投弾シタルモ安全辨掛入ノ儘ナリ

一八八—
 初帝國議會ニ闖入投擲ノ意向ナリシモ既
 モ休會中ナリシヨリ宮城正門ノ爆破ヲ決
 意セリト申立居レリ
 而シテ金社變ノ棟擧後幾何モナリ小林開
 ハ御里、小林寛一、黒島里経ハ共ニ大連、秀島
 廣ニハ上海ニ於テ各逮捕セラレタルカ爾
 末本件東京地方裁判所ニテ審理中四月十
 九日豫審終決シ金社變ハ爆發物取締罰則
 違反及強盜未遂竝ニ船舶侵入罪、小林開ハ偶
 歸郷ヲ欲セル際ナリシテ以テ左舷シ其ノ
 船海中金社變カ爆彈所持等ノ事案ヲ知り

居リシ為爆発物取締罰則違反及船舶侵入
幫助罪最初ヨリ爆弾携行使用ノ情ヲ知り
居レル秀島廣ニモ亦爆発物取締罰則違
友及船舶侵入幫助罪小林寛一、黒島里経ノ
兩名ハ船舶侵入幫助罪トシテ公判ニ附セ
ラレタリ

89-
星韓偉健韓在謙等不良ノ徒ハ該論文ノ内
容暗ニ現總督政治ヲ是認シ且從來ノ主張
ヲ放擲シテ代ルニ朝鮮ノ自治ヲ欲求シ或
東亜日報ニ「民族経綸」ト題スル杜説ヲ掲載
シタルコトアリ当時白武、下熙瑞、李憲、李如
本年一月初旬在京城諺文新聞(朝鮮人經營)
東亜日報ニ民族経綸ト題スル杜説ヲ掲載
シタルコトアリ当時白武、下熙瑞、李憲、李如
星韓偉健韓在謙等不良ノ徒ハ該論文ノ内
容暗ニ現總督政治ヲ是認シ且從來ノ主張
ヲ放擲シテ代ルニ朝鮮ノ自治ヲ欲求シ或

90-
ハ參政權獲得ヲ要望セルモノニシテ之ヲ
以テ東亜日報社カ當局ニ買収セラレタリ
トシ不取在東京朝鮮人大會ノ名ヲ以テ
謝罪及該論説ノ取消ヲ求メタルニ何等ノ
回答ナカリシヨリ二月五日市外高田町雜
司若日華日報青年會館ニ學友會會合ノ際
此カ経緯ヲ報告シテ更ニ同社ノ排斥運動
ヲ議決シタルカ由テ左月二十日李憲ヲ總
代表トシ學友會女子學與會朝鮮教育研究
會北星會朝鮮勞働同盟會螢雪會學友會平
文社朝鮮無産青年會前進社大坂朝鮮勞働
同盟會ノ十一團體名記入ノ石版刷聲討文
四千枚ヲ作成シ内鮮各地鮮人團體へ發送

同社朝鮮無産青年會前進社大坂朝鮮勞働
同盟會ノ十一團體名記入ノ石版刷聲討文
四千枚ヲ作成シ内鮮各地鮮人團體へ發送

セリ(鮮内禁止押收)

然ルニ震災後同社ト特殊關係ヲ生セシ元
罹災鮮人慰問班發起團體タル基督教青年
會天道教青年會等ハ當初未賛意ヲ表セス
其ノ後一部ニハ新ナル方法ニヨリテ徹底
的討滅ヲ期スヘシトナシタルモノアリシ
モ日時ノ経過ト共ニ自ラ冷静トナリ聲討
文署名團體ノ如キモ漸次離隔若ハ中立ノ
態度ニ出スルモノアリ一面三月中旬頃同
社長宋鎮禹ハ密ニ韓偉健ノ許ニ使者ヲ遣
リテ謝罪ニ加之主唱者タル李憲示熙瑤白
武ノ輩相次テ一時帰鮮セル等四月ニ入リ
テハ殆ト其ノ聲ヲ耳ニセス

(四) 三一 記念日ノ状況

朝鮮獨立記念日ト稱スル三月一日ノ示威
行動ハ歲ト共ニ輕微トナリ此所數年ヲ出
テスレテ其ノ聲ヲ絶川ニ至ルヘキ又瞭十
殊ニ本年ハ從來選定シタル日比谷上野西
公園空地ニバウツクノ建設ヲ見先ツ示威
運動ヲ行フニ適當ナル場所ナキト内地人
群集ノ誤解ニ基ク危害ヲ虞レ前況既ニ氣
勢揚ラズ纏ニ二月二十八日夜要注意團體
幹部ニ於テ協議決定シタル當日日華日鮮
青年會館ニ三一運動記念式ト稱シテ演說
會ヲ開催シタルノミ本行動以外ニ何等ノ

-93-

而シテ本講演會ハ其ノ日午後二時二十分
 開會シタルカ學友會朝鮮労働同盟會北星
 會無産青年會、雪會女子學興會ヲ主催團
 体トシ出席者韓偉健、韓在憐、金松段、徐相國、
 卞熙瑤、朴思稷、姜勲、李鈺、白武、朴銜秉、趙根泳、
 朴命連(文)外約百二十名ニシテ韓士白武以
 上七名悉ク論旨不總ナリシ爲臨檢警察官
 ニ於テ中止ヲ命シ、二時五十分解散ヲ
 命シタリ。左時ニ不總行動ニ出テタル金
 松段、李鈺、姜勲、趙根泳、四名ハ所轄署ニ檢
 束セラレタルモ左日夕刻釋放セララル
 (五)メ、イ、デ、ト、ト參加朝鮮人

-94-

當日赤坂山王臺ニ集會シタル人員約二千
 六百ニシテ有ユル労働團體ヲ網羅シ、鮮人
 ハ單ニ朝鮮労働同盟會名旗下ニ二十餘名
 (名アル者ナシ)參加シタルノミ
 之ヨリ前四月上旬日本労働總同盟本部ヨ
 リ、置民地開放運動ニツキテモ此際第一聲
 ヲ擧クルノ要アリト、迎合的勸誘文ヲ府
 下淀橋町角筈勞友舎内朝鮮無産青年會及
 朝鮮労働同盟會ニ送附シタルコトアリテ
 一時鮮人左傾團體ノ話題ニ上リタルモ警
 視廳ハ思想團體及女子ノ參加ヲ禁シ加之
 此種運動ノ首腦者ト見ルヘキ李憲、卞熙瑤、
 崔甲春等歸鮮不在ニシテ、白武モ亦數日前

鮮内ヨリ入京シタルモ當日金海、孫相、鎮柳、
 基、蔡、全、虎、岩ト共ニ挨拶セラレタル等意氣
 頗ル銷沈セリ
 一般参加者ノ昨年ニ比シ約半数ナリシハ
 震災ノ影響ヲ受ケ生活上ヨリ休業ヲ惜ミ
 且恰モ曇天タリシ為ニシテ終始ノ行動稍
 秩序ヲ保テタルハ取締警戒ノ適切ニ因ル
 ト虽モ又一ハ漸次自覺ヲ加ヘ来リタルニ
 他ナラス
 而シテ午前十一時ヨリ各團體代表者演説
 ヲナシ午後零時三十分山王臺ヲ出發行列
 ヲ正シテ上野ニ向ヒ左四時三十分上野公
 園ニ於テ無事散會セリ

(六) 華豐開墾公司設立運動
 吉林省吉林城山東門内平安胡同十號(原籍忠北鎮川)

「本名永澤」

鄭安

立

当五十七年

右者滿洲ニ鮮人自治地帯ヲ布設スヘク計
 画シ之カ所要資金調達運動ノ為昨夏八月
 入京シテ偶震災ニ遭遇シ十月初旬何等得
 ル處ナク一先帰鮮シタルカ今回在滿鮮人
 救済上株式会社華豐開墾公設立資金一千
 萬圓ヲ政府ヨリ貸付ヲ受クル為ト稱シ四
 月十一日同志関丙漢、吳世泳、洪祐哲及女婿權
 熙國ト共ニ再ヒ入京市外淀橋町角筈新宿
 ホテルニ投宿シ爾來會社設立趣旨書茲定
 款ヲ印刷シ上當局及關係者士ニ配布シテ

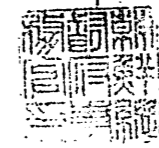
専ら奔走中本件ノ如キハ先ツ朝鮮總督府
ノ諒解ヲ得ルニアラサレハ不可ナリ
ナリ此方面ニモ運動セルカ到底成功ノ見込
ナシ

53

大正十三年五月三十一日

朝鮮總督府事務官古橋

卓四郎



坪上重田要局第三課長殿

一、在京朝鮮人狀況

一部

右御参考、為高覽ニ供ヘ候

朝鮮人對之施設
一紙